

主任相談支援専門員研修事業に係るシラバス

必須	項目	内容
○	1 教科名	1 主任相談支援専門員研修の目的
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	3. 相談支援従事者の人材育成に関する講義及び演習 ・人材育成の意義と必要性
○	3 関連する研修目標	(1)障害福祉の動向を捉えた上で、主任相談支援専門員の役割や責務について理解すること。
○	4 担当講師名	大久保 薫 (札幌学院大学)
○	5 担当講師略歴	平成13年～令和4年障害福祉分野の相談支援に従事。平成25年～29年基幹相談支援センターに従事。令和2年～札幌学院大学特別任用教授。
○	6 時間数	90分
○	7 到達目標	<基本> ・本研修の目的、及び本研修の全体像を説明できる。 ・前期演習における目的を説明できる。 ※理解を促進するために到達目標を段階的に設定。以降の科目同様。 <基本>実務との関連性に着目し説明ができる <応用>実践の活用を考えられる <体験学習>実際に体験（経験）し、省察・概念化したうえで実践につなげることができる
○	8 教科の概要	(1) 研修全体の流れと本研修の目的 ・相談支援専門員に必要な能力並びにそれを段階的に獲得及び高めていくための人材育成の必要性 ・事業所内や地域における効果的な実地教育のあり方 (2) 前期演習オリエンテーション、研修目的の共有 ・相談支援専門員に必要な能力並びにそれを段階的に獲得及び高めていくための人材育成の必要性 ・事業所内や地域における効果的な実地教育のあり方
○	9 授業方法	e-ラーニング講義／演習
○	10 授業計画	(1) 研修全体の流れと本研修の目的 【e-ラーニング講義 30分】 ①主任相談支援専門員研修の目的 ②本研修の全体像 (2) 前期演習オリエンテーション、研修目的の共有 【演習 60分】 ①前期演習オリエンテーション ②自己紹介 ③研修目的の共有
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

主任相談支援専門員研修事業に係るシラバス

必須	項目	内容
○	1 教科名	2 主任相談支援専門員の基本的視点と役割
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	1. 障害福祉の動向及び主任相談支援専門員の役割と視点に関する講義 ・主任相談支援専門員の役割と視点 4. 地域援助技術に関する講義及び演習 ・基幹相談支援センターにおける地域連携と地域共生社会の実現
○	3 関連する研修目標	(1)障害福祉の動向を捉えた上で、主任相談支援専門員の役割や責務について理解すること。
○	4 担当講師名	(1) 門屋 充郎 (NPO法人十勝障がい者支援センター) (2)・進行:大久保 薫 (札幌学院大学) ・報告者: 南川 大 <東川町> (こころん相談室) 岸田 春樹 <八雲町> (八雲町障がい者基幹相談支援センター) 吉村 寿人 <後志圏域> (前職 しりべし圏域総合支援センター) (現職 居宅介護支援事業所 はまなす)
○	5 担当講師略歴	(1) 平成 17 年～NPO法人十勝障がい者支援センター 理事長 (2)「主任相談支援専門員研修の目的」参照
○	6 時間数	180分
○	7 到達目標	<基本> 地域共生社会の実現を目指して主任相談支援専門員がそれぞれの地域や事業所等で果たすべき役割について説明できる。 <応用> 北海道内各地の基幹相談支援センターの実践報告を通して、勤務する地域における基幹相談支援センターと指定一般・特定相談支援事業所等の主任相談支援専門員や協働のあり方について考えることができる。
○	8 教科の概要	(1) 地域共生社会における主任相談支援専門員の基本的視点と役割 ・主任相談支援専門員が創設された経緯 ・基幹相談支援センター、指定一般・特定相談支援事業所等における主任相談支援専門員の位置づけ及び役割 (2) 基幹相談支援センターの運営と主任相談支援専門員の役割 ・基幹相談支援センター等の事業所の運営管理を行うための基本姿勢 ・協議会を活用した他職種連携やネットワーク作り、社会資源の開発 ・基幹相談支援センターの機能や設置方法、基幹相談支援センターにおける主任相談支援専門員の役割
○	9 授業方法	e-ラーニング講義
○	10 授業計画	(1) 地域共生社会における主任相談支援専門員の基本的視点と役割 【e-ラーニング講義 90 分】 ①主任相談支援専門員創設の経緯 ②主任相談支援専門員に求められる基本的視点 ③地域共生社会における主任相談支援専門員の位置付けと役割 (2) 基幹相談支援センターの運営と主任相談支援専門員の役割 【e-ラーニング講義 90 分】 ・実践報告「基幹相談支援センターの実践と課題」(東川町／八雲町／後志圏域) ＊地域の特徴と相談支援機関の歩み ＊地域課題と相談支援機関、相談支援専門員の現状 ＊基幹相談支援センターや主任相談支援専門員の役割と課題 ・パネルディスカッション「地域共生社会で基幹相談支援センター・主任相談支援専門員に期待される役割とは」
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	

	14 参照リンク	
--	----------	--

主任相談支援専門員研修事業に係るシラバス

必須	項目	内容
○	1 教科名	3 障害福祉施策の動向
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	1. 障害福祉の動向及び主任相談支援専門員の役割と視点に関する講義 ・障害福祉施策の動向
○	3 関連する研修目標	(1)障害福祉の動向を捉えた上で、主任相談支援専門員の役割や責務について理解すること。
○	4 担当講師名	林 健一（さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール）
○	5 担当講師略歴	平成 17 年～障害福祉分野の相談支援に従事。平成 25 年～札幌市基幹相談支援センターさっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オールに従事、平成 29 年より同センター長。
○	6 時間数	90 分
○	7 到達目標	＜基本＞ 相談支援の実践に必要とされる制度・関連施策の動向を説明できる。 ＜応用＞ 担当している利用者の生活を包括的・継続的に支えるために活用可能な制度等を確認することができる。
○	8 教科の概要	・障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律及び児童福祉等の改正の状況（相談支援事業、障害児支援、就労支援、発達障害者支援、障害福祉計画、権利擁護・虐待防止等） ・関連施策（児童福祉、高齢福祉、生活困窮者支援等）の最新の動向
○	9 授業方法	e-ラーニング講義
○	10 授業計画	【e-ラーニング講義 90 分】 ①総合福祉法、児童福祉法などの改正等 ②関連施策（児童福祉、高齢福祉、生活困窮者支援等）の動向 ③権利擁護と虐待防止法
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

主任相談支援専門員研修事業に係るシラバス

必須	項目	内容
○	1 教科名	4 運営管理
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	2. 運営管理に関する講義 ・相談支援事業所における運営管理
○	3 関連する研修目標	(2)相談支援事業所における運営管理のために必要な知識を理解すること。
○	4 担当講師名	(1) 小野寺 拓 (社会福祉法人あむ) (2) 大久保 薫 (札幌学院大学)
○	5 担当講師略歴	(1) 防災士。元札幌市障がい福祉課。令和3年～グループホーム支援、地域支援に従事。 (2)「主任相談支援専門員研修の目的」参照
○	6 時間数	170分
○	7 到達目標	<基本> 相談支援事業の運営管理を行ううえでおさえるべき基本的視点について説明できる。 <応用> ・所属機関等の運営管理の課題、及び所属期間等で主任相談支援専門員に求められる役割について考えることができる。 ・地域や所属機関等の災害等対策の課題について考えることができる。
○	8 教科の概要	(1) 組織の運営・管理の基本 ・事業所内における相談支援事業所に対する業務管理（労務管理を含む）の意義、方法及び課題と対応策 ・インシデント事例に基づき、相談支援を行う上で発生しうるリスクの予測とその評価の手法、組織に向けた仕組みや体制の構築のための手法 ・指定特定相談支援事業所等の安定的な経営を行うために必要な知識や配慮しなければならない事項 ・相談支援事業者に課せられている秘密保持義務の規定を再確認し、個人情報取り扱いに係るリスクと関連制度 (2) 災害等の対応の実際 ・自然災害が発生した場合の対応に関する基本的な考え方や方法、対応体制の構築に向けて必要な知識や方法
○	9 授業方法	e-ラーニング講義／対面講義
○	10 授業計画	(1) 災害等の対応の実際 【対面講義 90 分】 ①災害と災害支援の実際（これまでの経験から） ②災害等の対応の基本的知識と考え方 ③災害への具体的な備え (2) 相談支援事業所における運営管理 【対面講義 80 分】 ①組織の経営と人事管理 ②相談事業における業務管理・秘密保持、個人情報保護、情報開示の取り扱い ③相談事業におけるリスク管理
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

主任相談支援専門員研修事業に係るシラバス

必須	項目	内容
○	1 教科名	5 相談支援従事者の人材育成 I
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	2. 運営管理に関する講義 ・相談支援事業所における運営管理 3. 相談支援従事者の人材育成に関する講義及び演習 ・研修・グループワークの運営方法 ・人材育成の地域での展開 ④相談支援専門員に対する現場教育の方法と展開方法
○	3 関連する研修目標	(3) 自身の人材育成について振り返り、維持・向上すべき点を理解するとともに、現場教育の方法としてスーパービジョンの理論と機能、手法を理解すること。
○	4 担当講師名	(1) 大久保 薫 (札幌学院大学) (2) 赤杉 美香 (さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール)
○	5 担当講師略歴	(1) 「主任相談支援専門員研修の目的」参照 (2) 平成 18 年～障害福祉分野の相談支援に従事。平成 30 年～札幌市基幹相談支援センターさっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オールに従事。
○	6 時間数	470 分
○	7 到達目標	<基本> ・事業所や地域における人材育成の方法と課題、人材育成に必要な組織作りについて説明できる。 ・自分自身がおかれている立場で具体的にどのような人材育成を行うことが可能か考えることができる。 ・対象者理解を深めることができる人材を育成する意義とそのための事例検討の意義や目的、方法を説明できる。 <応用> ・前期 e ラーニング及び演習で学習したことを活用し、事業所等や地域での実習計画（事例検討等）を作成することができる。 <体験学習> ・事例検討を通して自らの実践を省察し主任相談支援専門員としての自己課題を明らかにする。 ・事業者や地域で事例検討を推進するための課題を明らかにする。
○	8 教科の概要	(1) 相談支援従事者の人材育成の視点 ・相談支援専門員育成の基本的視点 ・ソーシャルワークと相談支援専門員の育成 ・計画相談の実務と相談支援専門員の育成 ・人材教育の戦略と研修方法 ・対象者理解とスーパービジョン ・職場の人材育成、地域の人材育成 (2) 対象者理解と相談支援従事者の人材育成 ・対人援助職における対象者理解の重要性の理解 ・事例検討における対象者理解とスーパービジョンの関係性の理解と具体的展開 (3) 実践力向上をめざした事例理解の視点と方法（事例検討） ・事業所及び地域の人材育成、事例検討の振り返りと課題の抽出 ・事例検討の具体的展開の体験と自己課題の省察 (4) 人材育成の具体的な展開方法 ・事業所や地域における相談支援専門員に対する研修、事例検討、実地教育の企画・運営 (5) 事例検討会の実施 ・事業所や地域における事例検討、人材育成の課題の考察
○	9 授業方法	e-ラーニング講義／対面講義／実習
○	10 授業計画	(1) 相談支援従事者の人材育成の視点 【e-ラーニング講義 60 分】

		①相談支援専門員育成の基本的視点 ②ソーシャルワーク及び計画相談の実務と相談支援専門員の育成 ③人材教育の戦略と研修方法 ④職場の人材育成、地域の人材育成 (2) 対象者理解と相談支援従事者の人材育成 【対面講義 60 分】 ①対象者理解と相談支援従事者の人材育成 ②対象者理解と事例検討、スーパービジョン ③事例検討の具体的展開 (3) 実践力向上をめざした事例理解の視点と方法 【演習 290 分】 ・事例検討の具体的展開の体験と自己課題の省察 (4) 人材育成の具体的な展開方法 【演習 60 分】 ①前期 e-ラーニング及び演習の振り返り ②前期実習計画の作成 (5) 事例検討会の実施 【実習】 ・事業所または地域で事例検討会での実施
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

主任相談支援専門員研修事業に係るシラバス

必須	項目	内容
○	1 教科名	6 相談支援専門員の人材育成Ⅱ
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	3. 相談支援従事者の人材育成に関する講義及び演習 ・研修・グループワークの運営方法 ・人材育成の地域での展開 ・相談支援専門員に対する現場教育の方法と展開方法
○	3 関連する研修目標	(3) 自身の人材育成について振り返り、維持・向上すべき点を理解するとともに、現場教育の方法としてスーパービジョンの理論と機能、手法を理解すること。
○	4 担当講師名	(1) 大久保 薫 (札幌学院大学) (2) 橋本 達志 (日本医療大学)
○	5 担当講師略歴	(1) 「主任相談支援専門員研修の目的」参照。 (2) 平成2年～精神障害者医療福祉分野に従事。平成7年～札幌デイケアセンターに従事、令和5年より日本医療大学総合福祉学部ソーシャルワーク学科助教。
○	6 時間数	320分
○	7 到達目標	<基本> ・後期演習における目的を説明できる。 ・スーパービジョンに必要な視点、スーパービジョン実践に必要な価値・知識・技術について説明できる。 ・スーパービジョンを展開する上での基本姿勢と留意点について説明できる。 <体験学習> ・スーパービジョン演習を通して、対人援助職としての自身の実践の基盤となる価値、知識、技術について省察できる。 ・スーパービジョン実践における自己課題を明らかにする。
○	8 教科の概要	(1) 後期演習オリエンテーション・前期実習振り返り ・地域や事業所における相談支援専門員に対する研修の企画・運営 ・サービス担当者会議や協議会における協議の場を想定することにより、実践的なグループ運営や会議進行の技術を獲得 (2) スーパービジョンの概要 ・スーパービジョンの歴史と概要 (3) スーパービジョンの実際 ・スーパービジョンの具体的展開の体験と自己課題の省察 (4) スーパービジョンの理論と基本的姿勢 ・スーパービジョンの各種理論と機能（管理や教育、支持）及び具体的な展開方法 ・スーパービジョンの効果、相談支援専門員に対してスーパービジョンを行う際の留意点並びにスーパーバイザーとしての心構え及び視点の理解 (5) 所属機関（事業所等）や地域における人材育成の実際 ・事業所や地域における事例検討、人材育成の課題の考察 ・スーパーバイザーとして、個人に対するスーパービジョン及びグループスーパービジョンを実施する手法の獲得
○	9 授業方法	e-ラーニング講義／演習
○	10 授業計画	(1) 後期演習オリエンテーション・前期実習振り返り 【演習 50分】 ①後期演習オリエンテーション ②実習振り返り (2) スーパービジョンの概要 【対面講義 50分】 ①スーパービジョンの歴史 ②スーパービジョンの概要

		(3) スーパービジョンの実際 【演習 115 分】 ・ スーパービジョンの実際（スーパービジョン演習） (4) スーパービジョンの理論と基本的姿勢 【対面講義 60 分】 ① スーパービジョンの各種理論 ② スーパービジョンの機能と方法 ③ スーパービジョン実践の基本姿勢 (5) 職場や地域における人材育成 【演習 45 分】 ① 事例検討、スーパービジョン等を通じた人材育成のまとめ ② 職場や地域における人材育成の課題考察
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

主任相談支援専門員研修事業に係るシラバス

必須	項目	内容
○	1 教科名	7 地域援助技術
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	1. 障害福祉の動向及び主任相談支援専門員の役割と視点に関する講義 ②主任相談支援専門員の役割と視点 4. 地域援助技術に関する講義及び演習 ①地域援助技術の考え方と展開技法 ②地域援助の具体的展開 ③多職種協働（チームアプローチ）の考え方と展開方法
○	3 関連する研修目標	(4)地域連携を進める際の、主任相談支援専門員の役割を理解すること。
○	4 担当講師名	(1) 宮島友紀（相談支援事業所一条） (2) 佐藤直美（相談支援事業所くらしネットLink、広域相談サロンくらしネットオホーツク） (3) 山田幸広（相談室あゆみ） (4) 松本ほたる（ほたるさんの相談室） (5) 赤杉美香（さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール）
○	5 担当講師略歴	(1) 平成17年～北海道発達障害者支援センターあおいそら、平成18年～渡島・檜山圏域障がい者総合相談支援センターめい、平成26年～相談支援事業所一条 (2) 平成18年～相談室ま～ぶる、平成21年～広域相談サロンくらしネットオホーツク、平成30年相談支援事業所くらしネットLink (3) 平成27年～相談室あゆみ (4) 平成21年～相談室みなみ、令和3年～ほたるさんの相談室 (5) 「主任相談支援専門員の人材育成Ⅰ」参照
○	6 時間数	475分
○	7 到達目標	＜基本＞ ・地域共生社会の実現に向けて求められる地域援助技術の展開や多職種協働について説明できる。 ・主任相談支援専門員が行う地域課題の把握や解決の方法、及び協議会の活用について説明できる。 ＜応用＞ ・実践現場である事業所等や地域で主任相談支援専門員として行うことが可能な地域課題の把握、地域づくり等の具体的展開について考えることができる。 ・実践現場である事業所等や地域においての、利用者の生活を継続的・包括的に支えるための多職種連携の現状と課題について説明できる。 ・実践可能な地域課題の把握、地域支援に関する目標設定と地域課題解決に向けた具体的方法を検討することができる。 ・自らの実践地域において、チームが効果的に機能するための連携や会議等の運営方法とその課題について考えることができる。
○	8 教科の概要	(1) 地域共生社会の実現に向けた地域援助技術の視点 ・地域共生社会の実現に向けた地域づくり ・社会資源の開発などの地域づくりの意義と手法 (2) 相談支援専門員が行う多職種協働 ・医療、保健・福祉・介護・教育・雇用、司法・行政等との多職種協働における課題を認識し、円滑で効果的な連携を図るために必要な知識や展開方法 (3) 相談支援専門員が行う地域づくり ・地域アセスメントの実施、地域ネットワークの構築、社会資源の開発等を実施するために、協議会を効果的に運営又は活用するための知識及び技術の習得

		・地域課題の解決に向けたプロセス（①目的の共有 ②現状及び課題の把握 ③連携態勢の把握 ④推進チームの組織及び課題の分析と具体的取組の検討 ⑤共通理解の醸成 ⑥達成目標とスケジュールの管理等）の体験 （４）地域課題への取り組みと協議会 ・地域課題を把握するための情報入手・及び活用の方法（協議会の活用も含めて） ・地域課題の解決に向けた地域住民や関係行政機関等関係者によるネットワークの機能やその構築方法（協議会の活用も含めて） （５）地域援助技術の実際 ・地元地域のアセスメント ・地元地域での地域づくりの具体的計画
○	9 授業方法	対面講義／演習
○	10 授業計画	（１）地域共生社会の実現に向けた地域援助技術の視点 【対面講義 30 分】【演習 60 分】 ①地域援助技術が求められる背景・地域援助技術の基本的視点 ②地域共生社会の実現と地域援助技術の担い手 （２）相談支援専門員が行う多職種協働 【対面講義 30 分】【演習 60 分】 ・相談支援専門員が行う多職種協働 （３）相談支援専門員が行う地域づくり 【対面講義 30 分】【演習 85 分】 ①相談支援専門員が行う地域づくり ＊当事者が地域で生きる実践 ＊専門機関もいち住民として生きる実践 ②地域づくりにおける主任相談支援専門員の役割・期待（対談） （４）地域課題への取り組みと協議会 【対面講義 30 分】【演習 60 分】 ①地域課題の把握・地域課題の解決をめざした地域づくり ②主任相談支援専門員に求められる地域援助技術（協議会の活用） （５）地域援助技術の実際 【対面講義 30 分】【演習 60 分】 ・地元地域のアセスメント ・地元地域での地域づくりの具体的計画
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

主任相談支援専門員研修事業に係るシラバス

必須	項目	内容
○	1 教科名	8 本研修の振り返り
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	4. 地域援助技術に関する講義及び演習 ④基幹相談支援センターにおける地域連携と地域共生社会の実現
○	3 関連する研修目標	(4)地域連携を進める際の、主任相談支援専門員の役割を理解すること。
○	4 担当講師名	大久保 薫（所属・略歴「主任相談支援専門員研修の目的」参照）
○	5 担当講師略歴	
○	6 時間数	35分
○	7 到達目標	＜応用＞ ・主任相談支援専門員としての自己課題を明確にすることができる。 ・地域や事業所等において主任相談支援専門員として今後担っていく役割と具体的な行動目標について明らかにすることができる。
○	8 教科の概要	・講義・演習を振り返り、地域共生社会のあり方とその実現に向けた基幹相談支援センターや主任相談支援専門員の役割について理解
○	9 授業方法	演習
○	10 授業計画	①本研修全体の振り返り ②今後、地域や事業所等で果たすべき役割
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	